

四国／四万十川・滑床溪谷

遡行日：08年10月11日～13日

メンバー：三井（L・記録）金井、
糸井、奥平

元会員で四国に転居した本宮さんから何度か「四国の沢に...。」とお誘いを頂いていた。

最近、金井さんから「四万十川の滑床溪谷に行ってみよう。」との話しがでて、僕としても四国の沢は初めてで、それが「百名谷」となればいい機会だ。それなら本宮さんを誘って...、ということになって計画が立ち上がった。

糸井さんと奥平君の参加を得て今回の計画が纏まり実行の運びとなる。

〔第一日〕

新富士駅に集合、山行がスタートする。東名、名神、中国道、山陽道、と高速道をひた走り、さらに倉敷から瀬戸中央道に分かれ、瀬戸大橋を渡って四国に入る。さらに高松道、松山道と高速道乗り継ぎ、西予宇和I/Cで漸く高速道を下り、一般道を南下、宇和島に入る。

*四万十川に入るのになぜ高知ではなく愛媛の宇和島か、というと四万十川は大河で当然いくつもの支流を分ける。「滑床溪谷」はその支流の一つ、目黒川に位置する。

そこで少し迷ったりしたが滑床溪谷の少し手前にある道の駅「虹の森公園」に車を停めたのは22時、富士を8時

にスタートしているので900km、14時間の長丁場だった。(時間については途中の休憩も長めにとったし、迷ったりもしたので2時間くらいは短縮できると思う。)

テントを設営して軽く入山祝いをして早めに就寝。

〔第二日〕

道の駅から入溪口の万年橋に向かう。

30分ほどで万年橋に到着。橋の周りには整備された駐車場があり車を止めると手早く沢の支度を済ませザックを背にスタート。

沢に沿って遊歩道があり、流れを見つづ暫くその道を辿る。

ちょっとした落ち込みや淵に大層な名前がついていて表示板まで立っているのがいかにも観光名所らしいところか。

「出合滑」から入溪。早くも沢床はナメ状でつい、メンバーの顔もほころぶ。一部巨岩の堆積した所もあるがナメが続いている。沢に沿って明瞭に遊歩道があるので沢登りしている気分には浸り難い。

めいめい好き勝手にルートをとって進んで行くとやがて右岸に流麗なナメ滝を見る。

「雪輪の滝」と呼ばれている落差80mほどのナメ滝で「日本の滝百選」にも選定されている名瀑だ。

岩盤のせいなのだろう、瀑水が連なった白いリング状の流紋となって次々と流れ落ちて何とも優雅な風情を見せている。それが滝の名の由来だ。

ついメンバーの口から言葉がでる。「素晴らしいねえ。」

滑床溪谷の白眉だろう。暫し堪能。

さらに歩を進めるが沢はその名の通りナメ、ナメ、ナメ…。ひたすらナメが続く。

僕もナメの素晴らしさで知られる沢をいくつも遡行したことがあるのだがこのナメは沢床が花崗岩で長年に渡る侵食で見事な造詣美をみせていて周りの雰囲気ともマッチして厭きさせない。周りの木々は楓や落葉樹が多く見られ、秋の紅葉期は素晴らしい景観となろう。やがて「千畳敷」。昔は文人が紅い毛氈を敷いて句会や茶会などが開かれた事もあるらしい。

さらにナメの遡行は続き、ヒタヒタと水流を跳ねながら遡って行く。やがて「奥千畳」。二俣になっていて右岸側は二の俣沢。稜線への登山道も踏まれている。

更にナメは続き、古い砂防堰堤を越え暫く行くと右岸に一の俣沢を分ける。今回のルートだ。

ここまで来ても溪相は変わらずまだナメが続いている。一体どこまで…、と思うが暫く進むと沢が狭まりさすがにナメから岩のゴロゴロした小沢となる。歩き難くなった所で沢を離れ、木の生えた斜面をひと登りすると稜線に出た。稜線からは正面に宇和海が広がって見える。

沢を遡行して稜線に上がったなら海がこんなに間近に見える、というシチュエーションはそうないのではないだろうか。

稜線を辿り八面山に出る。頂上には二人の登山者がおり、一人は国立公園の調査に携わっているとの事でアンケート調査とか称して質問してくるが程々にして下山にかかる。

山頂から緩く下って行くと「熊のコル」。ここから登山道が二の俣沢に沿ってあり、のんびり下って行くと奥千畳に下り着く。

登山道（遊歩道）を戻って行くとちらほらと観光客とすれ違う。今からこんなじゃ紅葉の盛り時はすごい人出になるのもうなずける。

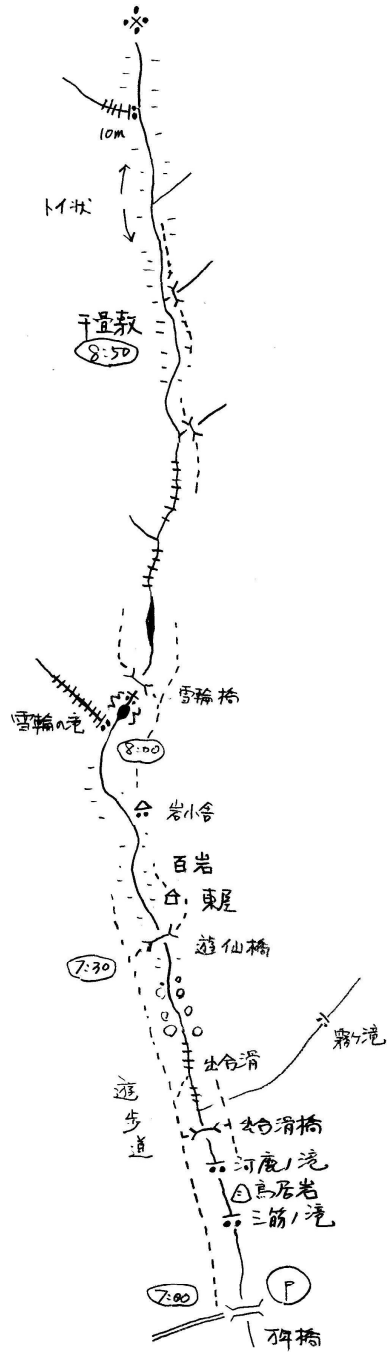
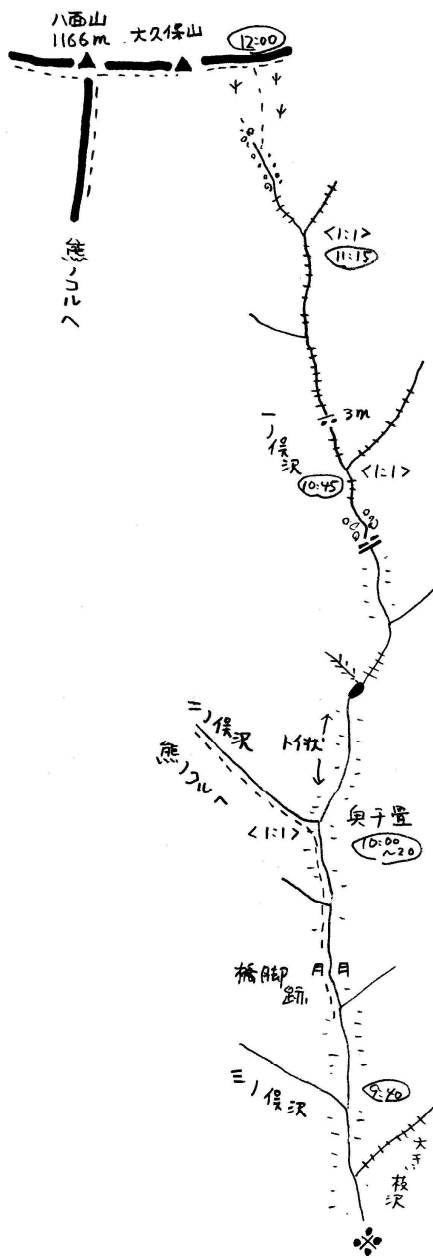
車に戻り本宮さん宅に向かう。本宮さんは今回の山行は直前で腰を痛めて不参加になってしまい残念だったけどこの日は泊めて頂く事になっていた。久し振りにお会いした本宮さんはお元気で、積もる話に楽しい時間を過ごさせて頂いた。

[三日目]

朝、本宮宅を辞し、今治小松道に乗る。淡路島を通って高速道を乗り継ぎ、無事富士に戻り解散。

*「滑床溪谷」はその名の通り出会いから源頭までナメの連続する美しい沢で「百名谷」に選定されているのもうなずける。

しかし、沢には滝やゴルジュがなければ、と考える向きにはもの足りない沢となろうし、如何せん、遠い。行こうとすれば時間、労力、費用等の負担は少なくはないし、それでも機会があれば行かれて損はないはず。



08年10月11日~13日
四万十川 / 滑床溪谷